

エルサレムの陥落

キー・ヴァース「主の怒りのゆえに、エルサレムとユダにこのようなことが起こり、ついに主は彼らを御前から追い出された。そしてゼデキヤはバビロンの王に反逆した。」
列王記下24:20

選ばれた聖句
列王記下24:18-20; 25:1-21

「過去を思い出せない者は、過去を繰り返す運命にある。(ジョージ・サンタヤーナ『**理性の生涯**』1905年)。古代イスラエルの人々は、この定説の餌食になった。何人かの善良な王、しかし多くの悪しき王の治世を経て、イスラエルとユダは彼らに対する主の憐れみと忍耐を使い果たした。彼らの過去は彼らの現在に反映されず、その結果、彼らは断罪された。イスラエル十部族王国の政体は、ゼデキヤが敗北する約**135**年前に、アッシリア王シャルマネセルによって消滅していた。(列王記下**18:9-12**)。ゼデキヤは歴史から学ぶよりも、神の裁きに逆らうことを選んだ。

預言者エレミヤは、来るべき裁きとユダがどのように対応すべきかを明確に示した。「この町にとどまる者は、剣と飢饉と疫病によって死ぬ。主はこう言われる：この町は必ずバビロンの王の軍勢の手に渡され、その軍勢がこれを奪うであろう。"と主は仰せられる。(エレミヤ38:2-3) 言い換えれば、「神の力強い御手の下にへりくだれ。カルデア人に屈服し、この神罰を受け入れよ。抵抗すれば、病気、飢餓、暴力で必ず死ぬ。"謙遜を拒み、傲慢を受け入れたゼデキヤは、反抗の道を選んだ。彼は神の力を信じず、信頼もしなかった。

列王記下24:18-20

私たちはこの記述から教訓を得、それを私たちのクリスチャン生活に生かすことができる。第一に、神に従いなさい。神のみこころを行うための「他の選択肢」を求めてはならない。クリスチャンには何もないのだ。「神は高ぶる者を拒み、へりくだる者に恵みをお与えになる。神がやがてあなたがたを高くしてくださるように、あなたがたは神の力ある御手のもとにへりくだりなさい。第一ペテロ5:5-7

神の御心は、私たちの地上の欲望にとって不愉快なものだろうか。私の子よ、主の懲らしめを軽んじてはならない、主の矯正を憎んではならない。わが子よ、主の懲らしめを軽んじてはならない。(箴言

3:11-12)。使徒パウロは、ソロモンの忠告を見事に洞察している。私たちは、霊の父に服従し、生きる方がずっと容易ではないか。彼らは実に数日の間、自分たちにとって最善と思われるように私たちを懲らしめたが、それは私たちの益となるためであり、私たちが主の聖さにあずかる者となるためであった。**"へブル12:9-10**

もしゼデキヤ王が、私たちが得たような理解力を持っていたなら、主に従うことを選び、生きたかもしれない。神からの懲らしめは、一般的に懲罰的なものだと思われる。ある程度はそうである。しかし、神の懲らしめは私たちの益となるものであるということを、もっと大きな教訓と認識すべきなのだ。それは神性における成長を促進する。神は私たちを助けるために私たちを正される。ユダが従っていれば、エルサレムは滅ぼされたにもかかわらず、彼らは生きていただろう。クリスチャンにとって、神の懲らしめを受け入れることは、**"神の聖さにあずかる者"**となるための益なのだ。